



今年度のESDの重点目標

- 評価規準の観点に「ESDの構成概念」「ESDの視点に立った学習指導で重視する能力」を取り入れ、目指す子供像を明確にして活動の具体化を図る。
- OSDGsの視点で教育内容を見つめ直し、地域と連携を図りながら、自然や社会に貢献しようとする児童を育てる。

【令和3年度 ESD実践報告】

4 質の高い教育をみんなに



01 ESDの視点を盛り込んだ単元配列表の作成・掲示

各学年で「ESDの構成概念」「ESDの視点に立った学習指導で重視する能力」等で教科・領域や単元のつながりが見える化し、職員室に掲示し、意識するとともにPDCAに取り組んでいます。



11 住み続けられるまちづくりを



02 わたしのまちの「すてき」(第2学年)

自分たちがまちとどのように関わっているのかを、特別支援学級の子供とともに、町探検やアンケートを通して考えました。「自分たちのまちはキラキラ光っていて、宝物である」「たくさんの『すてき』が見付かった」「まだまだ謎が多いところがある」と地域の人と触れ合う中で、自分の身近な人や場所に意識を向けて、さらに興味を広げていきました。



15 陸の豊かさも守ろう



03 季節となかよし(第1学年)

「まがたま池」再生プロジェクト(第5学年)

本校はビオトープ「まがたま池」など豊かな自然の中で「豊かな感性を育み、理性につなげる教育」を推進しています。例えば、第1学年の生活科で、子供たちがシャボン玉を「まがたま池」の水面でつくってどうなるかを繰



り返し試していた際に、「でも、まがたま池が汚れちゃうね」というつぶやきが生まれました。こうした感性を育みながら繰り返し自然環境に親しむことが、高学年での「自然環境を守ろう」という思いにつながっています。第5学年では、長い年月を経て生態系がくずれていた「まがたま池」の水を全て抜いて底に沈むどろをかき出し、ザリガニ等の生物をつかまえることで、多様な生物が生活できる環境を再生させました。さらに、地域の協力のもと井戸水を貯めた「まがたま池」の水を有効利用して米作りにも取り組み、自然環境や生態系を守ること、自然とともに生きることの大切さを学ぶ機会となりました。